

# 『タナトスのガールフレンド』(初演)

〔原案〕

女は高熱を出していた。

男は風邪薬を買いに出かけた。

死神が部屋にやって来た。

男の死期は近づいていた。

死神は男を迎えに来た。

女しか部屋にはいなかった。

死神は女に用はなかった。

女は男の帰りを待っていた。

死神も部屋で待つことにした。

男はなかなか帰ってこなかった。

なんにもならないのに出会ってしまった、ふたり。

〔登場人物〕

あやめ・・・友介の交際相手。風邪を引いて寝込んでいる。

シキ・・・死神。友介を迎えに来た。

※この作品は、上演を前提としない演劇ユニット「関係舎」の辻本直樹氏より、『作品タイトル』、『上記の原案』、『登場人物の簡単な設定』を買い取り、そこから作品として創作を行なっています。

友介の部屋。ベッド、テーブル、扇風機等がある。ベッドではあやめが風邪で寝込んでおり、友介はあやめの為に薬を買いに行っている。

そこへ、全身真っ黒い格好をしたシキが、どこからともなくやってくる。シキ、部屋の中をぐるりと見渡し、あやめを見つけると恐る恐る近づいていく。

あやめ

(うなされながら) bふあおい f v ね v i るい b d s ああああやだやだやだやだ、えー……。

シキ、驚いて飛び退く。

あやめ、何事も無く寝始める。

シキ、再びあやめに近づいていく。

あやめ、布団から手を出し、何かを探している。

シキ、近くにあったペットボトルを手渡す。

あやめ

ああ、ありがと……。(水を飲む)  
どういたしまして。

あやめ、部屋の中にいるシキにやっと気づき、固まる。

シキ

あやめ

シキ

あ、私、あやめに近づこうとしながら

あやめ ああああ、来ないで来ないで！

シキ え、あ、

あやめ 来ないで。

シキ ……。

あやめ それ以上近づいたら警察呼ぶから。

シキ ごめんなさい……。

あやめ 玄関から入ってきたの？鍵かかったたよね？

シキ いや、玄関は、使ってないです。

あやめ え、じゃあ何、窓？

シキ あ、いや、(ジャンプしながら) スンって。

あやめ スン？

シキ スンって。

あやめ スン……？

シキ スン……。

あやめ ……は？

シキ いや、本当に、はい。

あやめ ふざけないで。

シキ ふざけてません。

あやめ え、目的は？金？

シキ あ、いや、違うんです。あの、友介さん、いらっしゃいますか？

あやめ 友介？

シキ はい、ここに住んでるって聞いて来たんですけど、いらっしゃったのがあなただけだったので。

あやめ ああ、いまちょっと出かけてて。

シキ ああ、そうなんです。じゃあ、ここで待ちます。

あやめ へ……？

シキ はあ、あつ……。

シキ、扇風機を勝手につけ、涼み始める。

あやめ ちよちよちよちよつと……！

シキ あ、どうぞお構いなく。

あやめ いやいやいやいやいや、え？えつと、ちよつと待つて整理。えつ

と……、

シキ (扇風機に顔を近づけ) ふうふうふうふう……。

あやめ あんた誰！？

シキ (扇風機に顔を近づけ) わーれーわーれーはー、しーにーがーみー

だー。

あやめ え？

シキ (扇風機に顔を近づけ) わーれーれーれーわーれーれー……

あやめ うるさい！

シキ あ、ごめんなさい。あの、死神です。

あやめ ……。

シキ 死神。

あやめ え、どつきりか何かですか？

シキ あ、いえ、

あやめ 私真面目に聞いているんですけど。

シキ だとしたら私も真面目です。

あやめ いやいやいや、はあ？

シキ 真面目に死神やっています。

あやめ あーちよつと待つて……

あやめ、体温計で自分の体温を測り始める。

あやめ ……38度7分。

シキ あ、体調悪いんですか？

あやめ はい、だからいま友介が薬買いに行ってくれてて。

シキ ごめんなさい大変な時に、あの私、お邪魔にならないように静かに

してるので、

あやめ、体温計を持ってシキに近づき、シキの脇の下に体温計を

無理やり入れる。

シキ ええええ、何ですか何ですか、

あやめ 暴れるとちゃんと測れないから。

シキ え、え、

あやめ 私が熱でうなされてるのか、あんたが熱でうなされてここに来たの

かはつきりさせてやる。

シキ いやいやいや、

あやめ (体温計を見て) あれ、エラーになっちゃう……。

シキ あ、多分無理だと思います、私の体温4度なんです。

あやめ 4度?! え! (シキの額を触り) あ、冷たつ! え?!

シキ 信じてくれましたか？

あやめ いやいや、無理無理。

シキ えー、めんどくさ……。

あやめ 悪魔に言われたくない。

シキ 違います、死神です。

あやめ あーもう、そういうのいい……。え、あんた友介の、何？

シキ 何って、え、何？

あやめ いや、しらばつくないで、ちゃんと説明して。

シキ だから、何が、ですか……？

あやめ 友介とは、どういうご関係ですか？

シキ 関係も何も、私下請けなので……。

あやめ 下請け……？え、それはイヤらしい意味の言葉ですか？

シキ 違います。

あやめ え、じゃあどういうこと……？

シキ あのー、私は冥府から発注を頂いて、間もなくお亡くなりになる人

間の皆様の元に向向いて、その死を看取り、その方の魂を冥府にお

運びしているんですね。この仕事は、一般的に「死神」と呼ばれて

いて、私いまその仕事中、という……。

あやめ ……バンギヤか？

シキ 違います。

あやめ 新興宗教？

シキ 違います。

あやめ 友介、宗教とかはお断りしてるんで。

シキ あーもうお好きに……はあ……。

あやめ ああ、やば……、

あやめ、突然ふらふらとよろけ、布団に倒れこむ。

シキ え、え、大丈夫ですか？

あやめ ちよつと、うう……。

シキ え、あ、(水を飲ませる)

あやめ ありがとう……。

シキ 友介さん、どれくらいで帰ってくるか電話してみます？

あやめ ああ、お願い……。

あやめ、自分のスマートフォンをシキに渡す。

シキ、それを受け取り操作しようとするが、全く反応しない。

シキ あれ……？

あやめ ……？

シキ ああ、私人間じゃないからこのスマホ反応しないみたいです。

あやめ マジか……。

シキ ごめんなさい……。

シキ、あやめにスマートフォンを返す。

あやめ、友介に電話をかけるが、話し中で出ない。

あやめ んー……？

シキ 出ないですか？

あやめ ずっと話中……。

シキ あらま。

あやめ はあ……。

シキ 私のことは本当に気にしなくていいんで、ゆっくり寝てください。

あやめ ああ、そうだ、4度。

シキ 4度って呼ばないで下さい、ちゃんと名前ありますから。

あやめ あの、ちよっと手、貸して。

シキ あ、はい。

あやめ、シキの手を取り、額や首筋にあてる。

あやめ 気持ちいい……！

シキ お役に立てて何よりです。

あやめ ……名前は？

シキ ああ、シキです。

あやめ 私あやめ。

シキ すみません、お邪魔しちゃって。

あやめ ああ、ごめん、ティッシュ取って……。

シキ あ、(ティッシュ箱を手渡し) はい。

あやめ ありがとう。

あやめ、ティッシュで鼻をかむ。

あやめ ……それで、えーっと、シキは、死神……？

シキ はい、そうです。あーもう、今日何回死神って言ったんだろう……。

あやめ いや、普通死神って言われても理解できないから。

シキ まあ、そうですよね。

あやめ ちなみに私も理解したわけじゃないから。とりあえず、殺されたり

はしなさそうだと思うてるだけ。

シキ なーんだ。

あやめ え、だって、自己紹介とかしたら大体の人怖がるでしょ？

シキ あ、人間には基本的に見えないんで、私。

あやめ え……？

シキ でも、ごく稀にあやめさんみたいな人も、います。

あやめ 私がもう既に人間じゃないって話、

シキ ではないです、大丈夫です。

あやめ よかった……。

シキ 普段は、こういうことほとんど無いんです、こう、対象者がいないとか、他の人に会っちゃう、みたいな。

あやめ それモロ今回じゃん。

シキ はい、噂とかでは聞いたことあったんですけど、私もこの仕事初めてから初で……。おそらく発注時の申し送りのミスか何かだと思

うんですけど。

あやめ え、元々の発注、は何だったの？

シキ この部屋で亡くなる友介さんを看取って、魂を運送する予定でした。

あやめ ……。

シキ 一応10分〜15分くらいで終わるはずの案件だったんですが、

あやめ え、待って、

シキ ……?

あやめ 友介を何って？

シキ 友介さんを看取って、

あやめ 看取る？

シキ はい。

あやめ ……?

シキ あれさつき、私の仕事の説明しましたよね？

あやめ …… 友介、死ぬの？

シキ 私がここにいるということは、そうです。

あやめ は……ちよつと、変なこと言わないでよ……。

シキ …… 本当です。

あやめ え、いきなり自分の彼氏が死にますって言われて、信じられると思

う？

シキ そう言われても、私はそうとしか。

あやめ 冗談だよ、

シキ ……。

あやめ ……。

シキ あやめさん、私があなたを騙して傷つけようとか、お金を盗もうと

か、もしそういうふうな思っていたなら、ここまで時間ととく

に出来たはずですよ。でも、一切してません。だって私は、友介さん

が帰ってきて、死ぬのを待ってるだけだから。

あやめ ……え、何とかならないの？

シキ 決めたのも殺すのも、私じゃないので……。

あやめ 何で死ぬとか、そういうのは？

シキ 最近個人情報の管理が厳しいので、私も教えてもらえないんです。

あやめ …… 誰に頼めばいいの？

シキ え？

あやめ その、友介が死ぬって決めた奴に直談判する。

シキ 無理だと思います。

あやめ なんで！

シキ そのためには、まずあなたが死なないと……。

あやめ ……。

シキ 生きて三途の川は渡れないですから。

あやめ じゃあ、どうしたら、

シキ どうしようもないです、これは本当に。

あやめ ……。

シキ 人はいつか死にます、それが早いか遅いかだけの話です。

あやめ …… ねえ、出てって。

シキ ……。

あやめ どっか行って！

シキ …… じゃあ、家の外で待ちますね。体調悪いのに、ご迷惑をおか

けて申し訳ありません。

あやめ ……。

シキ、部屋の外へ出て行く。

あやめ、必死に友介に電話をかけるが、全く繋がらない。パニッ

クになっていると、シキが足早に部屋の中へ戻ってくる。

シキ 無理無理無理無理無理無理無理……

あやめ ……？

シキ (扇風機の前に座り) はああああああああ……生き返った。

あやめ へ？

シキ あ、ごめんなさい、外、暑すぎて……

あやめ はあ……

シキ やっぱりここにいっても良いですか？

あやめ もう何なのよ……

シキ 体温が4度だと、この暑さは致命的なんです。

あやめ あーもー、好きにして……

シキ 救われた……！

あやめ うう……。(鼻をかむ)

シキ 極力、お邪魔はしないようにしますから。

あやめ いやもう、いい、大丈夫。

シキ ありがとうございます。

あやめ ……友介、やっぱり電話出ない。

シキ 困りましたね。

あやめ うん。

シキ よくあるんですか、こういうこと。

あやめ うーん……ある。

シキ なるほど。

あやめ 全然連絡とれなくて、やっと繋がったと思ったら「駅でおばあさん

助けてて」とか、「悩んでる友達放っておけなくて」とか。

シキ あ、ああ、

あやめ いやでも、友介ならあり得る、だって本当に優しいんだから。

シキ あー……

あやめ この前なんて、「余命幾ばくもない友だちが、最後にマチュピチュ

見たいって言ってるから、俺一緒に行ってくるわ」って言ってペル

ー行ってた。

シキ え、それ、本当に信じてますか……？

あやめ だってお土産もくれたし。(テーブルの上にある小石を指し)それ、

マチュピチュの石。

シキ いやいやいや、

あやめ 今も誰かのこと助けてるのかな……

シキ まず目の前の彼女助けてよ……

あやめ え、もうどこかで死んじゃってるっていう可能性はある？

シキ いや、それはないです、死ぬ時は私の目の前で死にますから。

あやめ なんかそれも、こんなに盛大に発注ミスってる時点で信用ならない

けど。

シキ いや流石にそれは……

あやめ はあ、全て根本的などころからミスっててくれ……

シキ いやでも、仕事はちゃんとやらないと。

あやめ ……真面目なんだね。

シキ え、私？

あやめ うん。

シキ いやいやいや、そんなそんな。

あやめ だって普通、ここまで私が死なせないでって言うてたら、少しくら

いは何とかしてくれるもんでしょ。

シキ あー……。じゃあ、死ぬのは防げないですけど、魂を冥府に運ばないでここに残すことはできます。

あやめ 友介が死んだあとも、一緒にいられる、ってこと……？

シキ はい！

あやめ 本当に？！

シキ ただし、成仏ができないので最終的に悪霊になります。

あやめ うわまじか……。

シキ ポルターガイスト、不慮の事故、挙句の果てには呪い殺されます。

あやめ ああ……。

シキ 始末書数枚で出来ますけど、どうしますか……？

あやめ いいや、大丈夫……。

シキ すみません、でも本当に、出来そうなことってそれくらいで。

あやめ いや、ありがとう。なんか大変だね、そっちはそっちで。

シキ いやあ、全然そんなことないですよ。死神は死神でも、うちは本当に魂を冥府に運ぶ、ただそれだけを専門にやっているので、神とか言

ってる癖に扱いは運送業だし。だから、こんな格好してますけど、ぶっちゃけブルーカラーなんです。

あやめ へえー。

シキ 毎日指定された場所に行つて、人間が死ぬ所見て、魂持つて冥府に行つて、いつてらっしゃいませーって送り出して、また指定された

場所に行つて、人間が死ぬ所見て、の繰り返しです。なんか、普通に病むね。

あやめ

シキ でも、最初からそういうものだと思うので、別に……。ただ、

ずっとそうやってやってきたから分かんないんです、その、大事な

人が死んじゃう時の苦しいとか、悲しいとか、そういうの。

あやめ ああ、そっか……。

シキ だから、ごめんなさい、色々。

あやめ いやいや、それわかっちゃったら仕事にならないもんね。

シキ はい。

あやめ はあ……。どうするかな……。

シキ 友介さん、出かけてからどれくらい経つんですか？

あやめ ああ、二時間半、とか？

シキ え、薬買いに行つてるんですよね？

あやめ うん、その駅前の薬屋。

シキ あの……。それ絶対おかしいですって。

あやめ いやまた誰かのこと助けてるんだよ、絶対。

シキ 助けてません、絶対。

あやめ 友介のこと何にも知らないくせに。

シキ 知らないから言えることもありますよ。

あやめ ……。

シキ でも、私も友介さんは優しい人なんだと思います。

あやめ ……？

シキ だって、マチュピチュ行つてたつて嘘ついてくれるし、

あやめ 嘘じゃないから、マチュピチュ行つてるから、

シキ まあ、そうだとして、ちゃんとお土産まで拾ってきてくれるし、それ

れって十分優しいと思います。

あやめ ……まあ、うちのの、っていうか私の中で、それをちゃんと本当

のままでもいいさせてくれるっていうのは、優しいよね。



シキ  
はい。

あやめ  
何にもボロが出なくて、汚いところ一個も無くて、イケメンで、優しく、みんなに愛されて、つてもうこれは、嫌いになる理由なんて無い。

シキ  
はい。

あやめ  
でもみんなに愛されてるってことは、私じゃなくてもいいってことなんだよな。

あやめ、布団を被ったまま、扇風機に当たるシキに近づき、

あやめ  
シキ、手、貸して。

シキ  
(手を差し出し) はい。

あやめ  
(シキの手で顔を覆って) 気持ちいい……。

玄関の鍵が開く音が聴こえる。

あやめ、シキと顔を見合わせ、玄関へと向かう。

シキ、じっとその背中を見送る。

無断複製・転写を禁じます。

作品に関するお問い合わせ、上演許可等につきましては、カミグセ

([info@kamiguse.com](mailto:info@kamiguse.com))までお問い合わせください。